**（論文要旨）ベンチャー類型による新規事業開発に関する比較研究**

福嶋　幸太郎

大阪ガスファイナンス

　戦後復興期と現在では，企業を取り巻く経営環境は大きく異なっている。また，大企業の子会社が相当程度大きな事業規模に成長している現在 ，ベンチャー企業だけが新規事業を開発し，市場を開拓し，雇用を拡大し，日本経済の成長を牽引する役割を担っているとは言えない。

日本は欧米諸国と比較して開業率は低いが，廃業率も低い（少産少死）。逆に，欧米諸国の起業率は高いが，廃業率も高い（多産多死）。言い換えれば，日本は起業成功率が高い。すなわち，一概に起業件数を増やすことを促す政策や社会の風潮を形成するだけでは，事業創造の課題解決やイノベーション創出に繋がらないのではないか。

本稿では，既存企業から新規事業を創出するベンチャー（社内ベンチャー・カーブアウト型）と，既存企業と資本関係を完全に断つベンチャー（スピンアウト・スピンオフ型）の特徴を，新規事業開発の成否を決定する要因である，資本金，借入金，事業開始手続き，技術活用，人材起用・育成，経営スタイル，組織文化，経営者報酬，事業失敗・雇用保証，社会的意義，ベンチャー・スピリッツ，総括という切り口から考察し，その共通点・相違点・取組み課題を比較研究した。

以上